倶知安町地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

倶知安町は、北海道・後志地方の中央に位置し、秀峰「羊蹄山」の麓にある人口14,940人（令和4年12月1日現在）の町である。昭和47年12月20日には「スキーの町宣言」をし、冬には上質のパウダースノーを求めて国内外から多くの観光客が訪れる、北海道を代表する国際リゾート地である。

倶知安町市街地では、幹線道路をルートとする地域間幹線系統の運行があるものの、市街地住民にとって、生活交通としての利用が限定される路線であったことから、市街地における公共交通不便地地域の解消とJR倶知安駅でのJR函館本線、他の地域間幹線系統との接続に対応する公共交通として、平成24年4月から“まちなか循環バス「じゃがりん号」”を通年運行している。

「じゃがりん号」は、通年運行以来、市街地の高齢者や乳幼児を連れた主婦層の「生活の足」として、必要不可欠な移動手段になっていることから、地域公共交通確保維持事業により、今後も確保・維持していきたい。

地域公共交通の現況

- JR函館本線　倶知安駅、普通列車発着26本
- ニセコバス　幹線２路線（２系統）
  町内１路線（２系統）
- 道南バス　幹線２路線（２系統）
  町内２路線（４系統）
- スクールバス　６系統（うち４系統は無料住民利用を実施）
- 自家用有償旅客運送　２路線（10系統）
- ハイヤー　３社（稼働台数15台）

※令和５年１月１日現在

生活交通確保維持改善計画の目標

新規利用者からリピーターへの拡大を図るべく、下記系統ごとに1便あたりの平均乗車数を設定するとともに、全体乗車数を30,000人、持続可能な交通体系を維持するために、運賃収入の増加を2,250,000円と設定する。

①東西ルート：3.0人、②東西ルート拡大：7.0人、③東西ルート快速：2.8人、④東西ルート拡大・旭ヶ丘：7.0人、⑤東西ルート快速・旭ヶ丘：7.0人、⑥南北ルート：3.3人、⑦南北ルート拡大：5.0人、⑧南北ルート快速：2.0人、⑨南北ルート・旭ヶ丘：3.0人、⑩南北ルート拡大・旭ヶ丘：6.0人

協議会開催状況

令和３年10月15日　第37回協議会を開催
・デマンドバス冬期実証運行計画
令和４年１月17日　第38回協議会を開催
・令和３年度（10～9月）の事業評価
令和４年６月８日　第39回協議会を開催
・令和３年度（4～3月）の事業報告・利用状況
・令和４年度（4～3月）の事業方針・予算
令和４年10月24日　第40回協議会を開催
・デマンドバス実証運行計画
令和５年１月17日　第41回協議会を開催
・令和４年度（10～9月）の事業評価
・令和４年度計画策定調査事業評価

令和４年度事業概要

●市街地を大きく２つのルートに設定し、それぞれにおいて、旭ヶ丘公園経由便や全停留所、一部停留所に停車する便を設定

①東西ルート　平日２便・土日祝日１便
②東西ルート拡大　平日２便・土日祝日２便
③東西ルート快速　平日３便・土日祝日３便
④東西ルート拡大・旭ヶ丘　平日２便・土日祝日２便
⑤東西ルート快速・旭ヶ丘　平日１便・土日祝日１便
⑥南北ルート　平日２便・土日祝日１便
⑦南北ルート拡大　平日２便・土日祝日２便
⑧南北ルート快速　平日３便・土日祝日３便
⑨南北ルート旭ヶ丘　平日１便・土日祝日１便
⑩南北ルート拡大・旭ヶ丘　平日２便・土日祝日２便

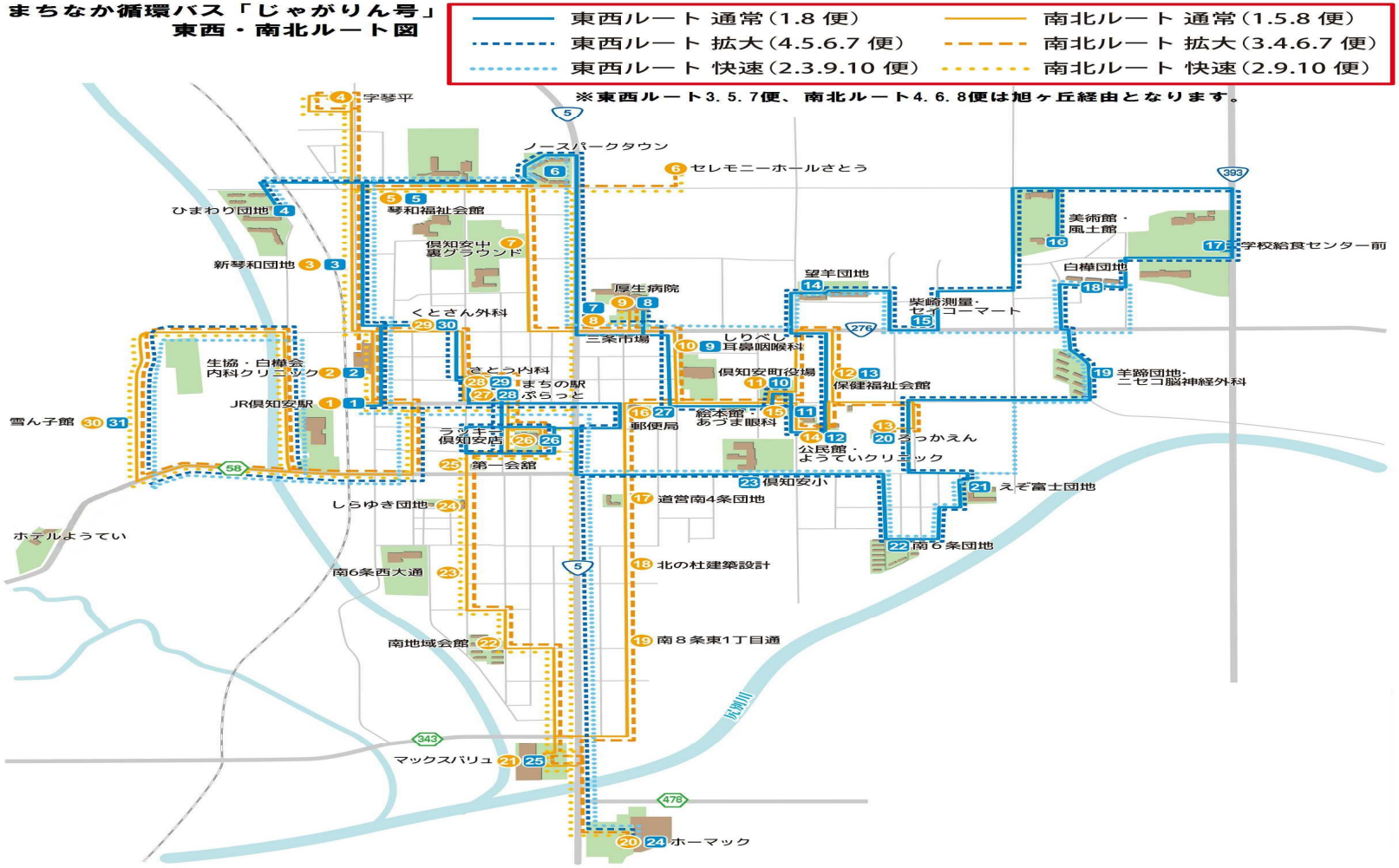
●乗車料金　大人100円　中学生以下無料（回数券12枚：1,000円、定期券１カ月：2,000円）

令和４年度事業の実施状況

１）プロセス、創意工夫

●住民にとって、これまで以上に身近な公共交通機関とする
●安全安心な公共交通を確立すべく、運転手との意見交換会を実施

２）運行系統

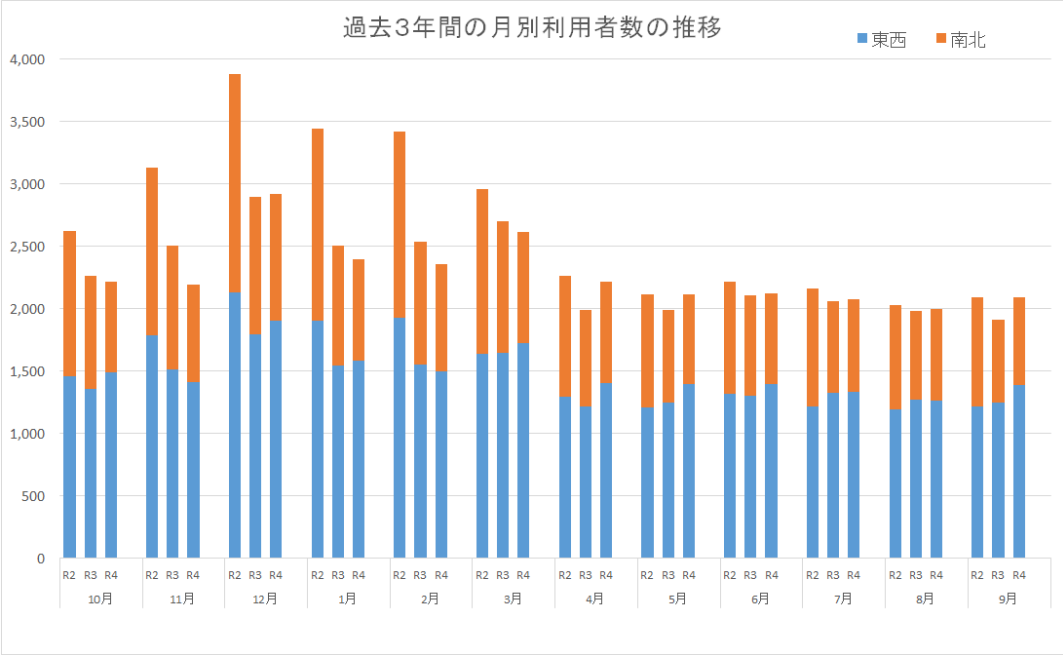


3）利用実績

※単位：人

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
R2年度東西	1,459	1,786	2,131	1,902	1,925	1,639
R2年度南北	1,165	1,340	1,747	1,535	1,489	1,319
R3年度東西	1,351	1,510	1,793	1,539	1,553	1,643
R3年度南北	912	992	1,100	967	984	1,053
R4年度東西	1,488	1,411	1,899	1,583	1,496	1,718
R4年度南北	725	780	1,017	807	859	896

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
R2年度東西	1,289	1,207	1,312	1,215	1,192	1,217	18,274
R2年度南北	968	907	899	945	834	875	14,023
R3年度東西	1,211	1,245	1,298	1,327	1,267	1,242	16,979
R3年度南北	774	743	804	730	711	671	10,441
R4年度東西	1,400	1,390	1,392	1,328	1,261	1,387	17,753
R4年度南北	811	726	732	742	737	703	9,535



4）収入実績　※フィーダー対象外系統含む

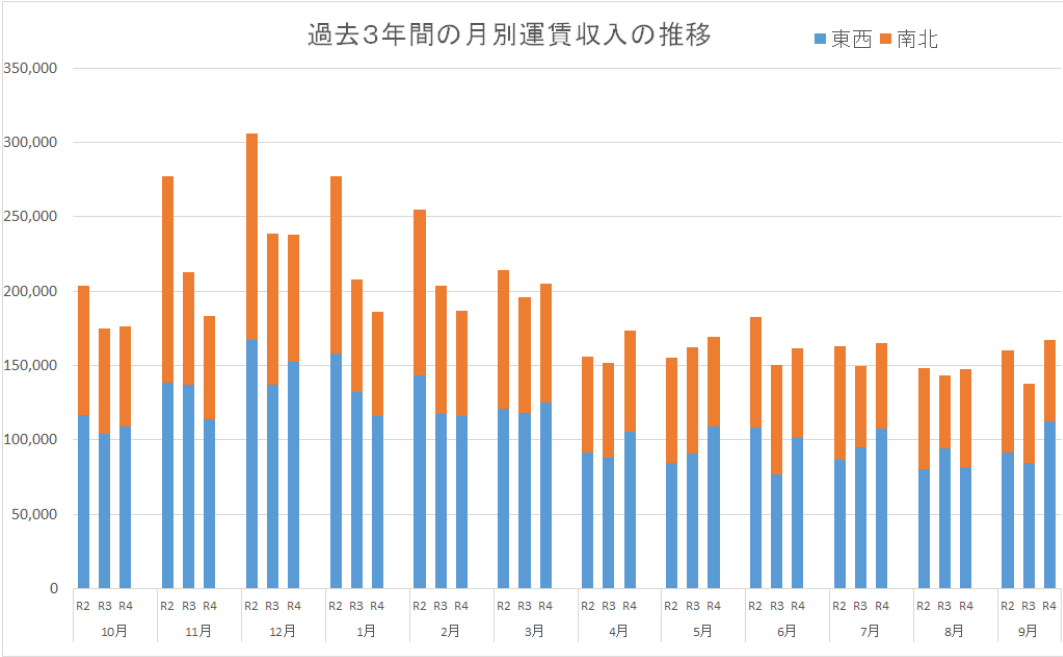
■運賃収入（単位：円）

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
R2年度東西	116,200	137,900	166,411	157,710	142,700	120,710
R2年度南北	86,650	108,301	139,220	118,750	111,510	93,200
R3年度東西	103,600	127,670	136,401	131,701	116,600	117,911
R3年度南北	70,800	75,710	101,650	75,700	86,510	77,900
R4年度東西	108,300	113,150	151,980	115,610	115,410	124,710
R4年度南北	67,300	69,400	85,470	70,100	71,000	79,850

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
R2年度東西	90,800	84,000	107,600	86,110	79,500	91,200	1,380,841
R2年度南北	64,600	71,000	74,500	76,500	68,450	68,810	1,081,491
R3年度東西	87,451	90,100	76,500	94,500	93,810	83,800	1,260,044
R3年度南北	63,600	71,630	73,410	54,400	49,000	53,190	853,500
R4年度東西	104,700	108,420	100,900	106,800	81,100	112,100	1,343,180
R4年度南北	68,300	60,200	60,400	57,700	65,700	54,790	810,210

■協賛広告収入（単位：円）

	協賛広告
R2年度	334,000
R3年度	396,000
R4年度	322,000



5）事業実施の適切性

計画している運行日数、運行回数どおりに実施した。

6）目標・効果達成状況

夏期には徒歩や自転車の利用で、バス利用者が少なくなるが、冬期に利用者が増加する傾向にあった。しかしながら新型コロナウイルス感染症の影響を受け、冬期にも大幅な利用減少がみられた。全体乗車数は、目標値30,000人に対し、27,288人（前年比99.5%）と目標を大きく下回る。運賃収入についても、目標値2,250,000円に対し、2,153,390円と目標値を下回る結果となったが、前年比では101.4%と、やや回復傾向が見られる。

系統名	平均乗車数 目標／実績	系統名	平均乗車数 目標／実績
東西ルート	3.0人／2.5人	南北ルート	3.3人／3.3人
東西ルート拡大	7.0人／8.1人	南北ルート拡大	5.0人／4.0人
東西ルート快速	2.8人／3.8人	南北ルート快速	2.0人／1.1人
東西ルート 拡大・旭ヶ丘経由	7.0人／5.7人	南北ルート・旭ヶ丘 経由	3.0人／2.0人
東西ルート快速・ 旭ヶ丘経由	7.0人／5.0人	南北ルート 拡大・旭ヶ丘	6.0人／3.4人

全体乗車数（目標／実績）[達成率]	運賃収入（目標／実績）[達成率]
30,000人／27,288人[90.10%]	2,250,000円／2,131,390円[94.73%]

7）事業の今後の改善点

【利用促進・利便性】
〇ルート・ダイヤ改正から5年が経過し、これまでの運行実績や実情に応じ、「集まる場所」へのルート・ダイヤ設定など、様々な方向から運行方法について検討する。
〇じゃがりん号の使い方（利用方法）を広く周知し、利用したことのない町民に対し、利便性の高い公共交通であることを認識してもらう。

【財源確保】
〇車体への協賛広告など、大手企業からの広告収入の検討。

8）地方運輸局における二次評価結果

- 自己評価のとおり、事業は適切に実施されている。
- 新型コロナウイルス感染症の影響もある中で前年度よりは回復傾向ではあるものの、全体乗車数・運賃収入いずれも目標を達成することはできなかった。
- 一部の系統においては、このままの利用水準では補助対象外となってしまう可能性もあるため、現在作成中の地域公共交通計画の施策にて、利用者ニーズのくみ上げを行い、更なる利用促進の取組を期待する。
- 持続可能な公共交通を維持する観点から、収支率といった事業効率の改善につながる目標を設定することもご検討いただきたい。